

## しまなみ農業だより

# 思わぬところに イノシシ団地

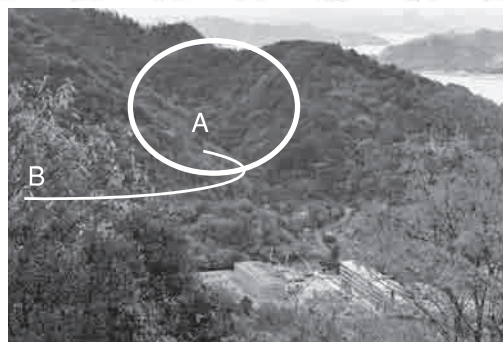


写真1 調査地点の上弓削南側の斜面

今年度は愛媛大学の武山先生とイノシシ調査を行っているのはご存知のとおりですが、12月には夏・秋にかけてのイノシシの実態について報告会を行いました。ところが冬になり寒くなつてまいりますと彼らは移動したようで、思わぬ近くに生息していることがわかりました。今月号は、上弓削南側、古法皇山の裾野周辺のイノシシの実態についてまとめてみます。

イノシシは上手に斜面を駆け上りますが、等高線方向への移動を好みます。昨夏イノシシがよく観察され、子育てを行っていたであろうと推測される、写真1の「A」の谷から、等高線上に「B」へ向かつて調査しました(調査日・12月20日、2月1日)。

写真2の円内



写真3 イノシシのネヤ(ねぐら)

線方向への移動を好みます。昨夏イノシシがよく観察され、子育てを行っていたであろうと推測される、写真1の「A」の谷から、等高線上に「B」へ向かつて調査しました(調査日・12月20日、2月1日)。



写真2 上弓削南側斜面のネヤ団地

注意。この斜面と団地との間には、幅1m程度の水路があり、イノシシはこの水路に架かっているコンクリート橋を渡つてこちらに来るようです。また、「B」から「C」方向へそのままずっと進むと、食料供給地でもある竹やぶを経て、貯水池下のぬかるみ「ヌタ場」へと続きます。写真3の中央のものは屋根までの高さ70cmくらいの立派な「ネヤ(ねぐら)」で、写真左にも小型のものが見えます。崖の段差と上から覆いかぶさつてくる蔓や草を上手に使い、雨風をしのぐスペースをこしらえています。この場所は北西の季節風も当たりにくく、暖かくしのぎやすいのが感じられます。

毎日使われているようで、調査のタイミングによつては、この周囲は動物園のような獣のにおいがします。この周囲には

「B」あたりで、多数のネヤ(イノシシのねぐら)を発見しました。以前は樹園地や野菜畑であったようで、階段状の石垣や境界の目印となる樹の名残も確認されました。ネヤが形成されているのは、ある段とその上の段との境になる小さながけのところで、4〜5m間隔で点々と形成されています。このポイントが団地のすぐそばであることに

こうしたネヤが点々と連なっていました。ネヤ団地周辺にはまだ新しい糞も多数落ちていました。調査時は幸いイノシシに出くわしませんでした。夜には戻り、早朝に再びどこかへ出かけるようです。この付近に暗視カメラを設置したところ、夜間はほぼ毎日、さらに1月16日には日中の15時ごろ、たしかにこの周辺で地面を掘りかえす大人のイノシシが確認されました。

結局のところ弓削島の場合、あまりにも近くで人とイノシシが同居しているようです。獣害軽減を図るには、これまで以上に捕獲(獣密度を下げる)し耕作地への侵入防止柵を管理するだけでなく、獣の好む環境を人の住環境近くから少しずつでも排除していく努力が必要のようです。

世界中に広がるイノシシ被害  
先日CSで放送中の「ナショナルジオグラフィック」ワイルド」を視聴しておりますと、イノシシに悩まされているのは日本だけでなく、ドイツのベルリンでは市内各地の公園内で何十頭もの野生ヨーロッパイノシシの群れが住み着き、オーストラリアでは逃げ出したブタが先祖返りして野生化したものが2300万頭以上、これらに農作物を食い荒らされて大弱りしている、という内容が放映されていました(番組名・破壊へ導く侵略者たち)。番組内でのナレーションを紹介します。

「誰かが何か行動を起こさない限り、更なる破壊的被害は免れない。しかし、「言うは易し行ふは難し」である。そこで、科学者たちと市民たちは今、自国を守るため、解決策を練り始める。」



写真4 ネヤ周辺に落ちていたイノシシの糞